

# 吸わないことが大切

## 城南中学校で喫煙防止教室



貝川裕唯さん

新宮市立城南中学校（中田善夫校長）で3日、1年生64人を対象に喫煙防止教室があった。新宮保健所保健福祉課の貝川裕唯さんを講師に招き、たばこの害や危険性などについて学んだ。

貝川さんは、たばこには三大有害物質である一酸化炭素、タール、ニコチンをはじめ、有害物質が約200種類、化学物質が約4000種類、発がん性物質が約60種類含まれていることや、妊娠中の喫煙が胎児にも影響を及ぼす事などを説明。

ニコチンには強い依存性があり、やめたくてもやめられなくなるため「最初の一本を吸わないことが大事」と訴えた。喫煙者の年間タール摂取量の見本や、喫煙者と非喫煙者の肺や歯、顔の比較画像などを紹

介した。

1日1箱吸うと費用は年間約15万円になることや、主流煙より副流煙の方が有害物質を含んでいることを述べ「体にとつて、いいことは何一つない。お金もかかり周囲の人たちにも迷惑がかかる」と語った。

貝川さんは喫煙開始年齢が早いほど肺がんで亡くなるリスクが高まるとし「もし誰かに誘われても『体に悪いから吸わない』ときっぱり断ってください」と呼び掛けた。生徒らはDVDも視聴し、たばこをやめる手助けをする薬もあり、医師に相談ができることを教わった。山縣孝太郎君（12）は「改めてたばこの怖さが分かった。誰かに誘われても断ることを徹底しようと思いました」と話していた。

（榮本康人）



真剣に耳を傾ける生徒ら＝3日、新宮市立城南中学校